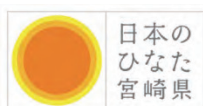


宮崎県幼保小接続カリキュラム作成のためのてびき つなぐ

～子どもの育ちと学びをつなぐ～



宮崎県・宮崎県教育委員会

【はじめに】宮崎県幼保小接続カリキュラムの作成にあたって

幼児期の教育と小学校教育では、教育課程や指導方法には大きな違いがあります。しかし、そこで学ぶ子どもたちの生活や発達、それぞれで別々に途切れるものではなくしっかりとつながっています。子どもたちにとっての「学びの連続性・一貫性」とは意図的・計画的に構成された環境や教育課程によって日々の生活や遊びの充実により、体験的に積み重ねられているのです。

平成29年3月に保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領が同時公示され、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を行うことの重要性が明記されました。先生方の目の前にいる子どもたちが、これまでどのように育ってきたのか、これからどのように育っていくのかをしっかりと理解した上で、「教育課程」によって円滑に接続できるようにしていく必要があります。

そのためには、互いの教育・保育の状況を把握するとともに、子ども一人一人の発達をしっかりと理解する必要があります。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を基にして、子どもたちの発達の特性と育てたい子どもの姿を捉え、連続性・一貫性をもった学びにつなげていくことが大切になっているのです。

接続期のカリキュラムとは、このような考え方を受け、円滑な接続を図るための具体的な教育・保育について示したものです。相互のよさを生かし、互いの教育・保育を見通した接続期のカリキュラムの作成により、「連携から接続へ」の実践を深めることができます。

この度、宮崎県こども政策課と宮崎県教育委員会が協働で、幼保小連携・接続推進会議を立ち上げ、委員の皆様とともに宮崎大学教授 立元 真先生に御指導いただきながら、「宮崎県幼保小接続カリキュラム作成のためのてびき」を策定いたしました。本てびきを各園、各小学校のカリキュラム作成や日々の保育及び指導に生かしていただくことにより、子どものよりよい育ち・学びにつなげることができれば幸いです。

最後になりましたが、作成に携わっていただきました関係機関の皆様には厚く御礼申し上げます。

平成30年3月

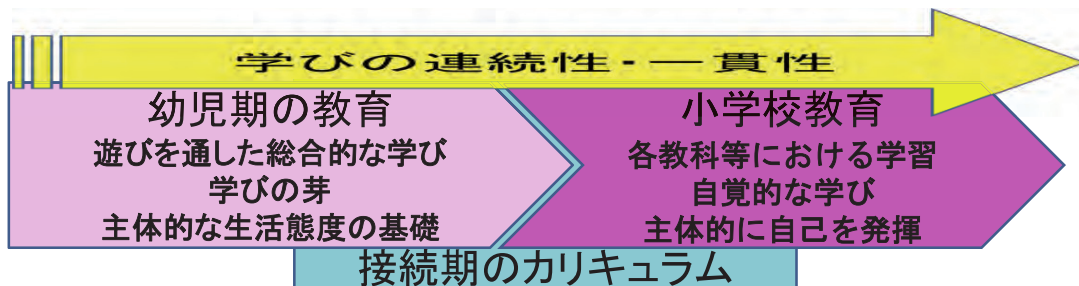
宮崎県・宮崎県教育委員会

目 次

I	接続期のカリキュラムの重要性について	1
1	小学校就学前の接続期のカリキュラムの重要性	
2	小学校のスタートカリキュラムの重要性	
II	小学校就学前の接続期のカリキュラムについて	
1	幼児期に育みたい資質・能力	2
2	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	2
3	接続期のカリキュラム（小学校就学前）を通じた 円滑な接続のイメージ	4
III	小学校のスタートカリキュラムの編成と実施について	
1	スタートカリキュラムを通じた円滑な接続のイメージ	6
2	スタートカリキュラム編成・作成上のポイント	7
3	スタートカリキュラムの例①	7
4	スタートカリキュラムの例②	8
5	スタートカリキュラム実施上の留意点	8
IV	接続期のカリキュラム（特別支援教育）	9
V	教職員に求められること	9
VI	連携から接続への過程	10
VII	接続期のカリキュラムQ&A	11

I 接続期のカリキュラムの重要性について

幼児期の教育と小学校教育の相互のよさを生かした、連続性・一貫性のある教育を保障するために、接続期のカリキュラムを整えることにより、円滑な接続を促す教育・保育や授業づくりの在り方を明確にし、子どもたちの資質・能力を育てていくことが重要となります。



1 小学校就学前の接続期のカリキュラムの重要性

幼児期の学びは生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものです。

小学校就学前の接続期のカリキュラムは、「学びの芽生え」を引き出し、これからの学びを見通しながら小学校教育へのスムーズな移行につなげるために、発達や学びの連続性を大切にしながら小学校へ入学する期待と喜びを高めることをねらっており、小学校教育との円滑な接続をすすめていく上で重要です。

○協同的な遊びや体験の充実に努めましょう。

○学びの芽を大切に活動の充実に努めましょう。

○就学への期待をもつ活動の充実に努めましょう。

小学校との接続を考慮し、子どもとのかかわりの中で子どもの気付きや思いをしっかりと受け止め、環境構成や働きかけの工夫などを行うことで活動を充実させていきましょう。



2 小学校のスタートカリキュラムの重要性

平成20年の「小学校学習指導要領解説 生活編」において、第1学年入学当初にスタートカリキュラムとして改善することが示されました。今回の改訂においては、発達の特性を踏まえた学校段階等間の円滑な接続の観点から、小学校学習指導要領総則に示される等、更にその重要性が高まっています。

小学校学習指導要領総則(抜粋)

……特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

Ⅱ 小学校就学前の接続期のカリキュラムについて

1 幼児期に育みたい資質・能力

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は、平成29年3月に同時改訂がなされ、幼児期の教育に関するねらい及び内容の一層の整合性が図られました。つまり、小学校就学前の教育が横にそろったというイメージです。

豊かな体験を通して、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする
「知識及び技能の基礎」

気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする
「思考力、判断力、表現力等の基礎」

育みたい資質・能力が明確化され、幼児期から高等学校教育までが縦につながることになりました。



一体的に
育んでいく

心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする
「学びに向かう力、人間性等」

この資質・能力は一つ一つを取り出して身に付けさせるのではなく、遊びを通しての総合的な指導の中で一体的に育まれていくものです。



2 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、その教育等に関わる者が、互いに育っていくことや育ってきたことを理解して、子どもたちの資質・能力を育んでいくために保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領等に示されたものです。

これは5領域のねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿で、指導を行う際に考慮するものであり、到達目標や個々に取り出されて指導するものではありません。

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・
規範意識の
芽生え

社会生活と
の関わり

思考力の
芽生え

自然との
関わり・
生命尊重

数量や図形、
標識や文字
などへの
関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿は、5歳児後半に突然「なる」のではなく、3、4歳児（1、2歳児及び乳児期）からの積み重ねも大切です。また、小学校入学後も、つながっていきます。



幼児期の教育と小学校教育が円滑に行われるように、意見交換や合同の研究の機会などを設けて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有しましょう。

小学校でも、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導を工夫することで、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことができるようにしましょう。



幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

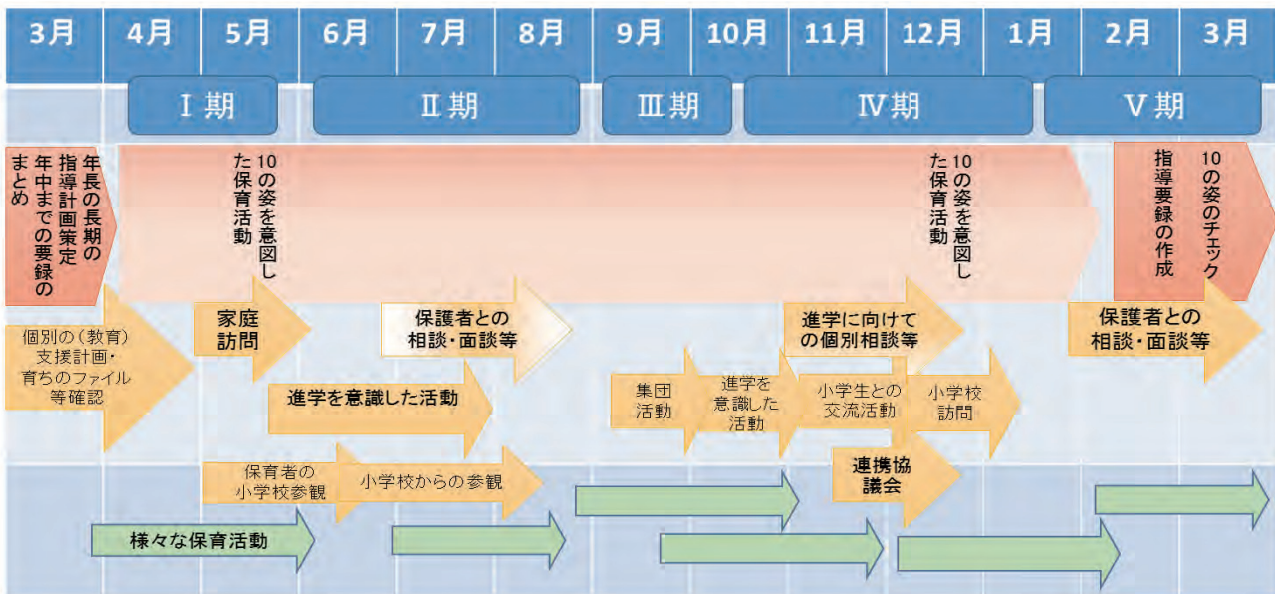
健康な心と体	保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもちようになる。また、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切に作る気持ちをもって関わるようになる。
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
言葉による伝え合い	保育士・教諭・保育教諭等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

3 接続期のカリキュラム（小学校就学前）を通じた円滑な接続のイメージ

接続期のカリキュラム（小学校就学前）は、幼児期の教育・保育の最終段階である5歳児後半の子どもたちが、スムーズに小学校生活や教科の学習に適応できるよう、乳幼児期の経験や学びを小学校教育につなぐことを意識して作成するものです。現在作成しているカリキュラムを幼児期に育ててほしい姿に沿って接続を見通した視点で見直していくことが大切です。

円滑な接続を行うためには、5歳児後半だけではなく、それ以前からの見直しをもって教育・保育を行うことも重要です。

【年中の3月から年長を見通した接続のイメージ】



【小学校接続を見通したカリキュラムの例】

	12月	1月	2月	3月
子どもの姿				友達と一緒に活動しながらつくった必要なままりを、友達同士で教え合いながら、ままりを守って遊んだり、クラスで力を合わせてやり遂げたりしながら集団としての意識が高まる。
ねらい	<p>地域や各園、子どもの実態に応じて開始時期を設定することは可能です。</p> <p>5歳児後半だけでなく、それまでの積み重ね（豊かな体験）も大切です。</p>			
環境構成と援助				
幼児期の終わりにあたってほしい姿				<ul style="list-style-type: none"> ・友達と目的を共有して、見直しをもって活動や遊びを進める喜びを味わう。 ・目的や課題に向かって根気強く取り組み、やり遂げる喜びを味わう。 ・小学校入学に向けての期待感を高め、自分の成長に自信と自覚をもつとともに、成長に関わった人や身近な人への感謝の気持ちをもつ。
個別の配慮・支援計画				<ul style="list-style-type: none"> ・健康・安全に必要な習慣や態度を身に付けて主体的に行動している。 ・友達と共通の目的に向かい考えを出し合ったり、協力したりしてやり遂げる喜びを味わう。 ・友達と一緒に活動し、してよいことや悪いことが分かる。 ・相手の立場に立って行動したり、自分の気持ちに折り合いを付けたりしながらままりをつくらせたりする。 ・1年生との交流を楽しみ、小学校生活への見直しをもつ。 ・自分の経験や考えを進んで話し、友達と伝え合う喜びを味わっている。 ・感じたことや考えたことを自分なりの方法で表現しようとする。
（準備）小学校入学前				<ul style="list-style-type: none"> ・幼児一人一人の特性に応じて、例えば言葉だけでは理解が困難な幼児には、小学校の実際の写真や小学校で使う教材・教具の実物を使いながら、小学校生活への安心感を醸成していく。特に小学校の入学式の内容を体験学習として取り入れ、言葉だけでなく写真で順番を追って説明するなどして不安や緊張感を軽減する。
（準備）振り返り				<ul style="list-style-type: none"> ・接続期のカリキュラムについて、必要に応じて小学校との情報交換を行う。 ・小学校の見学や体験活動の計画をともに行い、不安を取り除くことで、小学校入学への期待感を十分に高められるようにする。 ・保護者会や個人面談を通して、入学までの見直しを保護者に伝えたり、保護者の不安や悩みを小学校へつなぎ、共有できる体制を整える。 ・指導要録等をまとめ、小学校に引き継ぎ、共有することで子どもの育ちをつなぐ。
（準備）評価				<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの生活を振り返り、一人一人の成長を喜び、就学への自信と期待を高めるような関わりができたか。 ・基本的な生活習慣や健康・安全に必要な習慣や態度を身に付ける必要性を感じ、見直しをもって落ち着いた生活ができたか。

接続期のカリキュラム（小学校就学前）は、乳幼児期の教育・保育の最終段階である5歳児後半の子どもたちが、スムーズに小学校生活や教科の学習に適応できるよう、幼児期の経験や学びを小学校教育につなぐことを意識して作成するものです。現在作成しているカリキュラムを幼児期に育ててほしい姿に沿って接続を見通した視点で見直していくことが大切です。

接続期のカリキュラム（小学校就学前）の例	
3月	※これは3月の例ですが、地域や園の実態に合わせて作成します。
子どもの姿	・友達と一緒に活動しながらつくった必要なきまりを、友達同士で教え合いながら、きまりを守って遊んだり、クラスで力を合わせてやり遂げたりしながら集団としての意識が高まる。
ねらい	・友達と目的を共有して、見通しをもって活動や遊びを進める喜びを味わう。 ・目的や課題に向かって根気強く取り組み、やり遂げる喜びを味わう。 ・小学校入学に向けての期待感を高め、自分の成長に自信と自覚をもつとともに、成長にかかわった人や身近な人への感謝の気持ちをもつ。
環境構成と援助	・一日の流れを意識し見通しをもって活動できるようにする。 ・小学校の見学や体験活動をしたり、小学校の先生の話の聞いたりして、小学校入学への期待感と自覚を高めるようにする。 ・基本的な生活習慣を身に付け、自分のことは自分でできるよう家庭と連携して取り組む。
幼児期の終わりまでに育ててほしい姿	・健康・安全に必要な習慣や態度を身に付けて主体的に行動している。 ・友達と共通の目的に向かい考えを出し合ったり、協力したりしてやり遂げる喜びを味わう。 ・友達と一緒に活動し、してよいことや悪いことが分かる。 ・相手の立場に立って行動したり、自分の気持ちに折り合いを付けたりしながらきまりをつくったりまもったりする。 ・1年生との交流を楽しみ、小学校生活への見通しをもつ。 ・自分の経験や考えを進んで話し、友達と伝え合う喜びを味わっている。 ・感じたことや考えたことを自分なりの方法で表現しようとする。
個別の配慮・支援	・幼児一人一人の特性に応じて、例えば言葉だけでは理解が困難な幼児には、小学校の実際の写真や小学校で使う教材・教具の実物を使いながら、小学校生活への安心感を醸成していく。特に小学校の入学式の内容を体験学習として取り入れ、言葉だけでなく写真で順番を追って説明するなどして不安や緊張感を軽減する。
小学校へつなぐ視点（連携）	・接続期のカリキュラムについて、必要に応じて小学校との情報交換を行う。 ・小学校の見学や体験活動の計画をともに行い、不安を取り除くことで、小学校入学への期待感を十分に高められるようにする。 ・保護者会や個人面談等を通して、入学までの見通しを保護者に伝えたり、保護者の不安や悩みを小学校へつなぎ、共有できる体制を整える。 ・指導要録等をまとめ、小学校に引き継ぎ、共有することで子どもの育ちをつなぐ。
評価（振り返り）の視点	・子どもたちの生活を振り返り、一人一人の成長を喜び、就学への自信と期待を高めるような関わりができたか。 ・基本的な生活習慣や健康・安全に必要な習慣や態度を身に付ける必要性を感じ、見通しをもって落ち着いた生活ができたか。

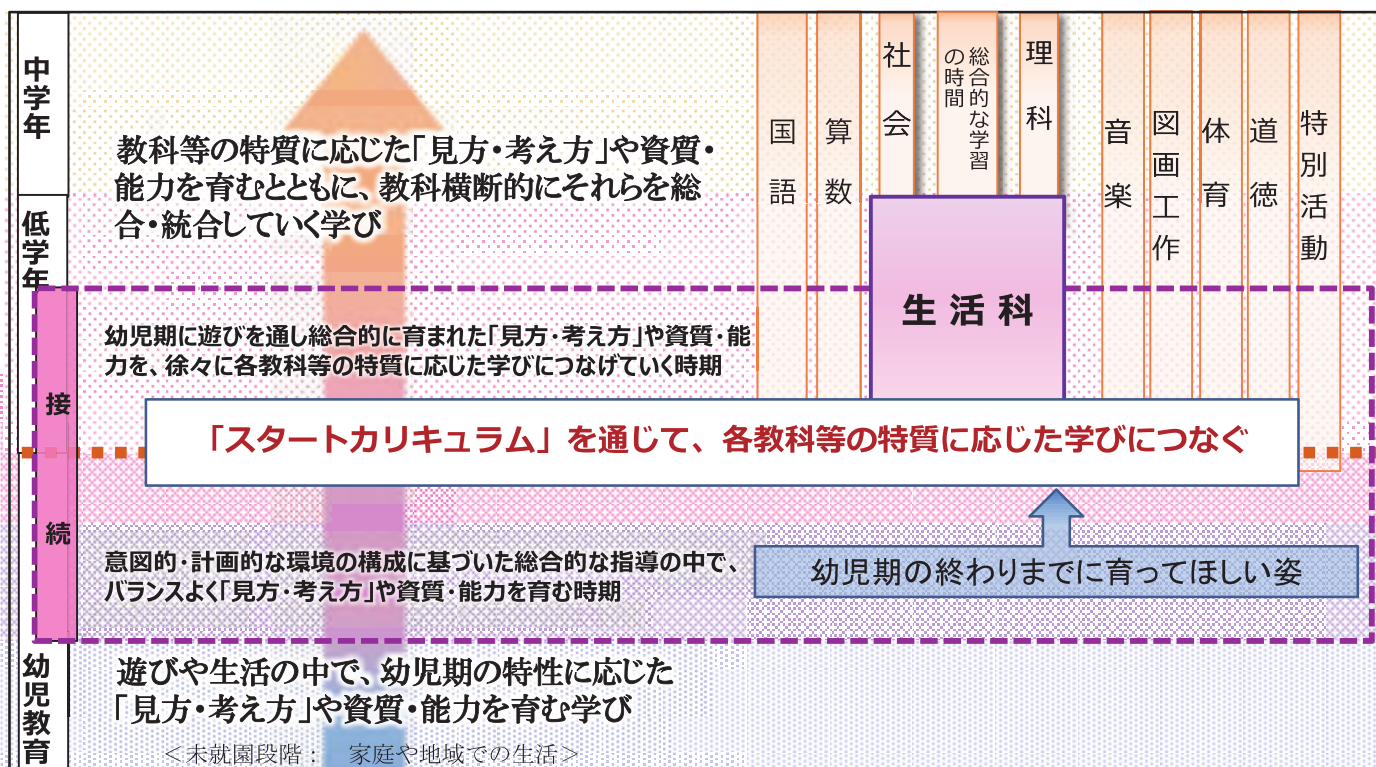
小学校教育の先取りではなく、幼児期における教育や保育が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、活動や環境の構成の工夫を行います。



Ⅲ 小学校のスタートカリキュラムの編成と実施について

1 スタートカリキュラムを通じた円滑な接続のイメージ

遊びや生活を通して総合的に学ぶ幼児期と、各教科等の学習内容を系統的に学ぶ等の児童期の教育課程は大きく異なります。そこで、入学当初は、幼児期の生活に近い活動と児童期の学び方を織り交ぜながら、幼児期の豊かな学びと育ち、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえて、生活科を中心に児童が主体的に自己を発揮できるようにする場面を意図的につくることが求められています。



ポイント①

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

幼児期の遊びは学びそのものであり、遊びや生活の中で育ってほしい姿（資質・能力）をまとめたものです。これは、小学校初期の目指す姿とも重なるもので小学校においては、このような具体的な育ちの姿を踏まえて、教育課程をつないでいくことが大切です。

ポイント②

- 他教科との関連

生活科と他教科等との合科的・関連的な指導を行ったり、生活とつながる学習活動を取り入れたりして、教科等横断的な視点で教育課程を編成することが大切です。

ポイント③

- 中学年以降の教育への接続との関連

低学年児童の未分化で一体的な学びから各教科の特質に応じた学びへ接続する観点から、体験と言葉を使って学ぶ等の特性を持つ生活科を中心とした学習の充実を図って、中学年以降へ発展的につなげることを意識することが大切です。

2 スタートカリキュラム編成・作成上のポイント

- ① 学校の教育目標を見据え、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連性を考慮し、期待する成長の姿を共有する。 ➡ ※「Ⅱ 2 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」参照
- ② 特に、小学校入学当初のカリキュラム編成を工夫する。
 - ・ 入学時からの長いスパンで考える。 ➡ ※「3 スタートカリキュラムの例①」参照
 - ・ 週単位で考える。 ➡ ※「4 スタートカリキュラムの例②」参照
 - ・ 幼保小の連携、家庭との連携を密に子どもたちの実態把握が必要となる。
- ③ 教科等横断的な視点で、下記観点から生活科を中心とした合科的・関連的な指導を行う。
 - ・ 生活科の学習成果を他教科等の学習に生かす。 ➡ ※「3 スタートカリキュラムの例①」参照
 - ・ 他教科等の学習成果を生活科の学習に生かす。 ➡ ※「4 スタートカリキュラムの例②」参照
- ④ 弾力的な時間割の設定を行う。
 - (例) ・ 10分から15分程度の短い時間で構成
 - ・ 2時間連続の学習活動の位置付け

3 スタートカリキュラムの例①

入学時からの長いスパンで考える。

入学当初の期間を長期スパンで考え、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、就学前の子どもの経験等を考慮して、期待する成長の姿を設定した上で、生活科を中心に他教科等の合科的・関連的指導を取り入れたカリキュラムを作成します。

編成・作成は、子どもにいいことだけでなく、先生にも、学校にも、保護者にもいいことなんです。



幼児期の終わりまでに育ってほしい姿			小学校就学前の経験		
健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数量・図形、文字などへの関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感情と表現			小学校就学前の経験等を把握することで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連性を考慮することができる。		
月	4月	5月	6月		
週	第1・2週	第3・4週	第1・2週	第3・4週	第1・2週
ねらい	・心をほぐす ・安心感をもつ	・ともだちとなかよくすごす	・学級のルールをつくる		
生活科単元及びねらい	がっこうだいすき ①いちねんせいになったよ ②がっこうともだち ③ひとつぶのたねから				
生活科指導計画	生活科を中心にした指導計画				
(合科的・関連的指導)	国語「 音楽「	書写「 算数「	学活「 道徳「		
(学校行事等)	入学式 対面式	参観日 家庭訪問	遠足		

期待する成長の姿(めざす子どもの成長の姿)を明確にする。

生活科を中心に、合科的・関連的指導が可能な他教科等の単元・内容を組み合わせて作成する。

4 スタートカリキュラムの例②

週単位で考える。

長期スパンで考え、配列した単元や学習活動等を、週案の形で週のねらいを設定し、その達成のため具体化します。子どもの実態から、合科的指導とともに生活のリズムに合わせた弾力的な時間割を設定したり、関連的な指導による教科等を組み合わせた時間割を設定したりしてカリキュラムを作成します。

	4月〇日(月)	4月〇日(火)	4月〇日(水)	4月〇日(木)	4月〇日(金)
週のねらい	学校だいすき「友だち・先生となかよくなるう」				
朝の会	なかよしタイム 手遊び歌・お話読んで・お話聞いて・みんなで歌おう・仲間づくり				
1校時	音楽2/3, 国語1/3, 特活1/3				
2校時	1年生になったよ ・はじめての国語 国語2/3 ・教室にあるもの 生活1 ・楽しいなもしろ いな 図工1・1/3	算数 はじめての算数	関連的な指導ができる教科等を組み合わせる。		
3校時		1年生になったよ ・鉛筆の持ち方 「名前を書こう」 書写2/3 ・学校の1日 生活1・1/3	児童の実態や学習活動に応じてモジュールや2時間続きの学習にするなど、時間配分を工夫する。		
4校時					

「長期スパン」のねらいをもとに、人との関わりから集団づくりへステップアップするような「週のねらい」を設定する。

【例】合科的な指導による、児童の生活リズムに合わせた時間を設定し、児童に安心感をもたせることを重視する。

合科的な指導とは、単元又は1コマの時間の中で、複数の教科の目標や内容を組み合わせて、学習活動を展開するもので、
関連的な指導とは、教科等別に指導する際、各教科等の指導内容の関連を検討し、指導の時期や指導の方法などについて相互の関連を考慮して指導することをいいます。



5 スタートカリキュラム実施上の留意点

- カリキュラムマネジメントの観点から、PDCAサイクルを確立する。
 - 校内組織で準備
 - 時期を捉えて反省・検証・改善
 - 全校の協力体制のもとでの取組
- 下記の視点で校内の学習環境を整備する。(子どもが安心して学べる学習環境づくり)
 - 児童の実態を踏まえること
 - 人間関係が豊かに広がること
 - 学習のきっかけが生まれること
- 家庭や地域、保育所(園)・幼稚園・認定こども園等と連携する。

スタートカリキュラムに係る連携はもちろん、特別に配慮を要する児童等の実態を把握するとともに、個人情報に配慮しながらスタートカリキュラムに生かしていくことが大切。

Ⅳ 接続期のカリキュラム（特別支援教育）

特別な配慮を必要とする幼児が在籍している可能性を前提に、全ての教職員が特別支援教育の目的や意義について十分理解し、幼児の障がいの状態や特性及び発達段階に応じて、発達を全体的に促していくことが大切です。また、子どもを個別から集団生活の中で見るという視点がとても重要となります。

- ① 障がいのある幼児の「**困難さ**」に対する「**指導上の工夫**」を理解し、個に応じた様々な「**手立て**」を検討する。
- ② 障がいのある幼児に対する分かりやすさを念頭に置くことで、**多様な学び方をする幼児がねらいに到達するための段差を少なくするとともに、周りの幼児にとっても分かりやすい活動**になります。
- ③ **教育・保育者自身が、支援の必要な幼児への関わり方の見本を示しながら**、周囲の幼児の理解を促し、**周囲の幼児も共に育てる視点**も重要となります。

障がいの種類や程度によって一律に指導内容や指導方法が決まるわけではありません。一人一人の障がいの状態等により、生活上などの困難さが異なることに十分留意し、個々の幼児の障がいの状態等に応じた指導内容や指導の工夫を園全体で計画的に、組織的に検討し、適切な指導を行うことが重要です。

- ④ **個別の(教育)支援計画**^{*1}や**個別の指導計画**^{*2}等を作成することは、幼児の支援内容を明確にし、具体的な活動内容に反映されるとともに、全教職員が共通理解を図るのに有効となります。また、在園中の支援の目的や教育支援の内容を小学校へ伝えたりするなど、切れ目のない支援に生かすことができます。

※1: 幼児一人一人のニーズに対応して適切な支援を行うため、長期的な視点のもと、園が中心となって、医療、福祉等の関係機関と連携し作成する計画

※2: 個別の(教育)支援計画を踏まえ、具体的に一人一人の教育的ニーズに応じた短期的な指導目標、内容、方法をまとめた計画

Ⅴ 教職員に求められること

幼保小連携・接続の推進には、長期的で柔軟な視点で幼児期と小学校のつながりをとらえ、発達の段階などに留意しながら子どもたちのよさや長所を生かす計画や環境構成を行うとともに、使命感、情熱をもって子どもたちの教育・保育にあたることが求められています。

- ① 幼児期と小学校の教育課程・指導方法等の違い、子どもの発達や学びの現状等を正しく理解する力
- ② 幼児期の教育・保育を担当するものは、小学校教育を見通す力
小学校教育を担当するものは、幼児期の教育・保育を見通す力
- ③ ①②を踏まえ、今の教育活動（保育）を構成・実践する力
- ④ 他の教職員や保護者と連携・接続のために必要な関係を構築する力

幼児期と小学校の教育・保育に携わる者が、自身の教育・保育に関する指針や教育要領、指導要領を理解・実践するだけでは到達できないため、両者の連続性・一貫性を理解し、実践する必要があります。

そのためにも、合同の研修会やこれまでも進めてきた連携の取組を充実させていきましょう。



VI 連携から接続への過程

【小学校との「連携」から、小学校教育との「接続」に向けた過程】

Step
1

教職員間の交流や園だより、行事予定表などの交換をしたり、子ども同士の交流、教職員の交流を進めたりします。全職員の理解と協力のもとで行われるように留意しましょう。

Step
2

年数回の授業、行事、研究会などの交流を年間指導計画などに位置付けて実施し、事後の反省・検証を行い、次へつなげましょう。

Step
3

恒常的な授業、行事、研究会などの交流を実施し、連携の実践を踏まえ、接続を見通した教育課程の編成・実施へつなげましょう。

Step
4

接続を見通した教育課程を編成・実施するとともに、学期末ごとや年度末に事後の反省・検証を行い、PDCAサイクルを確立し、次年度以降の改善につなげましょう。

地域や園、学校が現在どの段階にあるかを確認し、連携から接続へ取組を発展させて行きましょう。



Ⅶ 接続期のカリキュラムQ & A

Q1

接続期のカリキュラム(小学校就学前)の実施時期はきまっていますか？

A1

子どもの生活や発達、乳幼児期から幼児期、児童期へと連続性があります。遊びや生活の中で積み重ねられた子どもの様々な育ちが、小学校以降の生活や学びの基盤となっていきます。小学校以降の子どもの発達を見通して、幼児期に育てるべき力をしっかりと育てるために、日々の生活や遊びの充実を図るものが接続期のカリキュラム(小学校就学前)です。

そのため、実施時期については、地域や各園、子どもの実態に応じて開始時期を設定することは可能です。なお、設定の際には、地域や園、子どもの実態把握と綿密な計画が大切です。

Q2

接続期のカリキュラム(スタートカリキュラム)の実施時期はきまっていますか？

A2

遊びを中心とした保育所・幼稚園・認定こども園等の生活から、小学校生活や教科学習にスムーズに接続ができるように工夫された指導計画、つまり子どもたちが楽しく学校生活に慣れていくことができるようになるものが接続期のカリキュラム(スタートカリキュラム)です。

そのため、児童の実態に応じて時期を延長して実施したり、早めに実施を終えたりすることが考えられます。また、夏休みなどの長期の休み明けや2年生進級時などにも、必要に応じて繰り返し実施することも考えられます。

Q3

スタートカリキュラム作成の際、『「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえる』とありますが、「踏まえる」とはどんな意味でしょうか？

A3

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(いわゆる10の姿)を、それぞれ発展させて小学校の到達目標等に据えたり、スタートカリキュラムの子どもの期待する成長の姿やゴールイメージとして設定したりするといったものではありません。

これまで、幼児期の遊びや生活について「踏まえることが十分でなかった」ために、生じている諸課題の解決を目的としたものであり、幼児期の教育・保育について理解を深め、スタートカリキュラム編成に生かすことをねらったものです。

Q4

発達の気になる子どもに対して、どのようなことに注意すればよいですか。

A4

日々の活動の中で、考えられる困難さは、障がいの種類や程度に応じて決まっているのではなく、一見同じ行動でもその要因が違う場合があります。活動の中で、困難さの実態をしっかりと把握し、幼児一人一人に応じた適切な指導や支援を検討することが重要です。例えば、生活や活動への見通しがもちにくく、気持ちや行動が安定しにくい場面において、自閉傾向のある幼児であれば、見通しがもちにくいことから不安が増す場合や、聴覚障がいがある幼児であれば、聞こえにくさからくる不安が増す場合もあります。



宮崎県幼保小接続カリキュラム作成のためのてびき
つなぐ

平成30年3月発行
宮崎県・宮崎県教育委員会

～幼保小連携接続推進委員～

- | | |
|--------|--|
| 立元 真 | (宮崎大学 教授) |
| 横山 槿子 | (宮崎県保育連盟連合会理事長) |
| 森迫 建博 | (宮崎県幼稚園連合会長) |
| 伊豆元 精一 | (宮崎県認定こども園協会会長) |
| 山本 博昭 | (宮崎市立檜北小学校長) |
| 土屋 貴代 | (宮崎大学教育学部附属幼稚園長) |
| 戸高 志織 | (三股町教育委員会：平成29、30年度幼保小連携接続推進事業指定教育委員会) |
| 金子 文雄 | (宮崎県教育庁学校支援監) |
| 川越 浩司 | (宮崎県教育庁特別支援教育室長) |
| 高畑 道春 | (宮崎県こども政策課長) |